

あとがき

『松葉名所和歌集』にかかわる三部作の刊行を思い立ったのは、数年前であった。すなわち、一つは本書に収めた『松葉名所和歌集』十六卷（目録一卷、本文十五卷）であり、他の一つは本年八月に刊行した『續松葉集』四卷（笠間索引叢刊58）である。残る一つは、『増補松葉名所和歌集』五卷（六字堂宗恵編、尾崎雅嘉増補）であるが、この方はすでに大阪府立図書館のご許可を得て作業に入っているので、来年度中には本索引叢刊の一冊として公刊できる予定である。三書ともに、歌数のきわめて多いものであるだけに、思わぬ時間が必要としたが、幸いにも村田君の積極的な協力を得ることができ、今回ようやくこういう形で刊行できる見通しが立ち、ほっとしているところである。

さて、本書の本文・初句および四句索引・地名索引は、村田君の礎稿に基き、神作が一张张チェックした共同作業である。また巻末に収めた「解題」は、それぞれ兩名の署名入りで分担執筆をした。ともに未熟な論考ではあるが、諸先学のあたたかいご教導を仰ぐことができれば幸甚である。なお、本書の諸本調査については、わたしども兩名が共同で担当することを原則とした。

本書の刊行にあたり、諸本調査の折々、ご高配を忝うした宮内庁書陵部・神宮文庫・静嘉堂文庫・尊経閣文庫・内閣文庫および市立刈谷図書館・国会図書館・明治大学附属図書館・東洋大学附属図書館ならびに片寄鈴枝・木村正中・橋本不美男・服部夢・吉田幸一の

各先生に対し、心から厚くお礼申しあげたい。とりわけ、口絵写真掲載をまご許可くださった静嘉堂文庫および片寄鈴枝先生に対し、深甚の謝意を表したい。ところで、本書前半の所「本文篇」の原稿整理には、千艘幸子・山内英男両君および安川史子氏の助力を仰いだ。また、本書後半所収の「索引篇」に関しては多数の諸君の助力を得た。まず、「初句・四句索引」の草稿作成には、当時（昭和五十年）東洋大学三年次に在学中であった宇佐見尚子・梅木美和子・勝亦恵子・菊地洋子・新出美智子・半田君江の六君を煩わした。なお、そのカード整理では、同学大学院に在学中であった青木恵子・千艘幸子・谷地快一・造酒廣秋・山田喜久の五君の助力を得た。つぎに、「地名索引」のカード整理には造酒廣秋君の手を煩わした。ともに深く感謝の意を捧げたい。

さらに、「本文篇」（十六卷十六冊）の原稿を、手書きのまま写真にとって本にするということになったため、浄書がどうしても必要となった。その浄書にあたっては千艘幸子君の献身的な援助があった。全六八三丁分（総歌数一一、五六四首）の浄書のために、長期に互りご援助くださったことに対し、幾重にもお礼申し上げたい。なおまた、「索引篇」の校正にあたり、青木恵子・千艘幸子・造酒廣秋三君の助力を得たことも忘れ得ない。

末筆ながら、前著に引き続き、刊行上種々お世話になった笠間書院主池田猛雄氏、および同社の鎌田裕次氏に対しても厚く御礼申し上げます。

昭和五十二年十月一日